

シンガポールの都市計画を学べる施設 ～都市再開発庁 シティギャラリー～

シンガポール事務所

1. シンガポールシティギャラリーの概要

シンガポールの都市開発庁が実施する都市計画・国土開発計画について、その発展の過程を含めて紹介するシティギャラリー(Singapore City Gallery)視察の状況を報告します。

都市再開発庁は、国家開発省管下の法定機関です。「To make Singapore a great city to live, work and play(シンガポールを住みやすく、働きやすく、楽しみやすい都市に)」というコンセプトのもと、都市計画・国土開発計画の総合立案及び取りまとめを担当する機関です。主な業務内容は、土地の有効活用に関する戦略的計画の立案・遂行(コンセプトプラン・マスタープラン)、環境・社会基盤整備の調整、文化的遺産・地区の保護などがあります。

シンガポールシティギャラリーは、都市再開発庁が実施する都市計画について、その歴史や過程を紹介する展示施設です。ギャラリーは、交通アクセスの良い町中心部にありながら、1階から3階まで2400㎡のスペースをぜいたくに使用し、展示物を鑑賞するだけでなく、都市計画を実際に体験できるゲームがあるなど子供から大人まで楽しみながらシンガポールの都市計画を学べるよう工夫されていました。ギャラリー内は、テーマ毎に10のゾーンに分けられていますが、中でも印象的であった内容について紹介します。



シンガポールシティギャラリー



シンガポールの中心部の模型

2. シンガポールの都市計画

シンガポールは、都市であると同時に国家でもあります。東京23区ほどの限られた面積の土地に、都市としては住居、産業、休養・娯楽、交通機関など市民のための施設、国家としては空港、港湾、道路などを整備する必要があります。限られた面積を有効に活用するため、シンガポールは長期的かつ包括的に都市計画を進めてきました。具体的には、次の40～50年の期間を見据えて策定されるコンセプトプランが10年ごとに見直されています。2001年のコンセプトプラン策定にあたっては、インターネットや意見交換等を通して国民の意見が聴取されました。

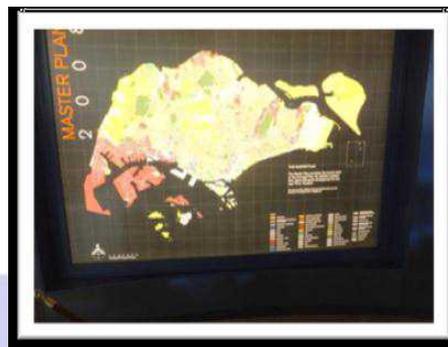
このコンセプトプランを具体化するのがマスタープランであり、民間部門と協力して進め

られています。コンセプトプランは、住居、産業、交通機関などについて予定地を示し、マスタープランはかなり細部まで計画され、次の 10～15 年の開発の指針となるものです。

特筆すべきは、都市計画にあたって、経済的な発展はもちろん、住民にとって質の良い暮らしを実現することが重視されていることです。町の中心部から若干離れたところに産業施設と住居を建設して通勤時間の短縮化を図っていたり、公園や緑を増やしたりと住民の暮らしの質向上を目指しています。また、シンガポールを特色のある都市とするため、マリーナベイサンズのような象徴的な建物の建築も推進されています。



コンセプトプラン



マスタープラン

3. 歴史的建造物、地区の保存

シンガポールは、近代的なビルが立ち並んでいる印象が強いですが、一方でチャイナタウン、リトルインディアなどは昔からの姿のまま保存されています。これは、歴史あるアジアの都市であるというアイデンティティを守るためであり、都市開発庁は保存すべき地区、建造物を指定しています。2012 年 3 月末の時点で、7091 の建造物が保存されました。

シンガポールシティギャラリーの視察を通して、シンガポールが現在のような魅力的な都市となった背景には、戦略的に進められた都市計画があったことが実感できました。日本の地方自治体とは状況が異なるため、そのまま応用することは困難ですが、計画立案にあたって明確なコンセプト（「To make Singapore a great city to live, work and play」）があること、計画推進段階で複数の行政機関、民間部門が関わっていることなど、学べる点は多いのではないかと感じました。

<参考>

シンガポールの都市開発政策及び都市開発施策の変遷等については、「シンガポールの政策（2005 年改訂版）：財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所」をご参照ください。

（自治体国際化協会シンガポール事務所 HP） <http://www.clair.org.sg/j/reports.html>

（新山所長補佐 大田区派遣）